

第15回朝日のびのび教育賞受賞のお知らせと 受賞テーマ「おもちゃ修理体験学習支援」の概要

1. 受賞報告

おもちゃ病院伊都国は、「第15回朝日のびのび教育賞」を受賞し、2014(H26)年2月3日付け朝日新聞紙上で発表されました。P3は掲載記事の抜粋です。

「朝日のびのび教育賞」は、多様な教育活動に光を当てることを目指して1999年に創設された朝日新聞社の表彰制度で、関係各位のお力添えを得て取り組んできた「おもちゃ修理体験学習支援」活動が、全国158団体の応募から受賞6団体の一つに採択された次第です。



【朝日のびのび教育賞正賞の盾「智恵の森」】

正賞の盾「智恵の森」は、彫刻家の三谷慎さんによるものです。全面にフクロウの彫刻があしらわれています。

フクロウは、夜でも物を見分ける鋭い目を持つことから「智恵の象徴」とされ、ローマ神話の女神ミネルヴァが連れていることで知られています。

朝日のびのび教育賞ホームページ

<http://www.asahi.com/shimbun/award/edu/outline.html>

より抜粋

2. 「おもちゃ修理体験学習支援」の芽生え

おもちゃ修理体験学習支援は、次の様な「ふとしたきっかけ」で始まりました。

このきっかけ無ければ「おもちゃ修理体験学習」は生まれなかったでしょうし、その後の発展も無かったでしょうから、きっかけを与えて下さったお三方に改めて感謝いたしております。

- (1) 2007(H19)年度に、当時志摩町企画課中島様のお勧めで「環境フェスティバル」でおもちゃ病院を出張開設。
- (2) 同フェスティバルで、当時二丈町環境衛生課の岡様が、おもちゃ病院の活動を知られた。
- (3) 2008(H20)年度に二丈中学校山田先生が、「環境問題体験学習」のテーマについて岡様に相談されたときに、岡様が「おもちゃ病院の体験」を推薦された。
- (4) 山田先生から当方に打診があり、相談の結果二丈中学校の生徒が近くの深江保育所に出向く形で「おもちゃ修理体験学習」を実施することになった。

3. 「おもちゃ修理体験学習支援」の概要と実績

「おもちゃ修理体験学習支援」は、日頃の「おもちゃ病院」活動の延長線上で実施しているユニークな活動の一つで、「子ども達が自宅から持ち寄った壊れたおもちゃを自ら修理する学習」をおもちゃ病院のスタッフが指導する活動で、2008(H20)年度の二丈中学校を皮切りに2013(H25)年11月までに次の5校で合計8回の授業支援をしました。

- (1) 2008(H20)年度 二丈中学校 3年生 環境対策体験授業
- (2) 2009(H21)年度 南風小学校 4年生 環境対策体験授業
- (3) 2010(H22)年度 東風小学校 全学年 おもちゃ修理体験
- (4) 2011(H23)・2012(H24)・2013(H25)年度 一貴山小学校 4年生 生活科授業
- (5) 2012(H24)・2013(H25)年度 引津小学校 3年生・4年生 総合学習

何れの例も、実施校の先生方や市教委のご理解とご協力で実現したものです。改めて御礼申し上げます、

3. 「おもちゃ修理体験学習支援」の詳細

学習の過程では、1クラスを4～5名の班に分け、各班を担当する1～2名のスタッフが、教材の壊れたおもちゃを前にして、①考えさせる、②相談に乗る、③助言する、④道具の使い方などを教える、⑤難しいところは手助けする、⑥出来たら思いっきり褒める、などの指導をいたします。最初は躊躇していた子ども達もやがて夢中になり、



2013(H25)年度 一貴山小学校

- (1) 工夫しながら自分で修理した体験と修理できた達成感によって挑戦意欲が生まれ、
- (2) 物を大切にする優しい心や、使い捨て習慣を見直す環境意識が啓発され、
- (3) 好奇心の刺激が科学技術への関心を高めると評価されています。

学習支援の仕組みも回を重ねるごとに充実し、現在では

- (1) 実施の3週間位前に事前説明会を開催して学習の意義や修理作業の事例を説明し、
- (2) 実施の2週間前には、持ち寄られた壊れたおもちゃの修理難易度を仕分けして、「90分の時間内に子ども達が修理できそうな物」を教材に選定し、
- (3) 実施日までに修理に必要な部品・材料を準備し、教材不足の場合は別途調達するなどによって、万全を期す様になりました。

なお、(2)の仕分け作業で教材に選定しなかった物は、後日おもちゃ病院で修理して持ち主に返却しています。

参考までに、2014(H25)年1月引津小学校の「おもちゃ修理体験学習報告書」をP4に添付いたします。

以上のような次第で、「おもちゃ修理体験学習支援」は、座学や施設見学では得難い「生きた環境教育」と評価されていることが、今回の受賞に繋がったと理解しています。

おもちゃ病院伊都国はこれまでに次の賞を受賞していますが、今回の受賞を励みとして、これからも「おもちゃ修理体験学習支援」の推進に取り組みますので、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

- (1) 平成22年度福岡県市民教育賞(地域社会教育賞)
受賞テーマ:おもちゃ病院活動を通じた子ども達の健全育成
- (2) 平成24年度福岡県共助社会づくり表彰(地域貢献活動部門賞)
受賞テーマ:壊れたおもちゃの無償修理と、不要おもちゃの再利用支援

お問い合わせ先



ボランティア団体 おもちゃ病院伊都国 代表 波多江 保彦
〒819-1104 糸島市波多江 512 電話:090-9139-7186

ホームページ:

(http://www.geocities.jp/omotya_itokoku)

地域に学ぶ 地域で学ぶ

「朝日のびのび教育賞」に6団体

朝日新聞社の第15回「朝日のびのび教育賞」(ベルマーク教育助成財団後援)に6団体(うち「ベルマーク賞」と「まなあさ賞」に1団体ずつ)が決まった。全国から応募のあった158団体の中から、朝日新聞記者による現地調査と、社内審査で選考した。新設のまなあさ賞はIT(情報技術)を活用した取り組みを対象とした。各受賞団体には正賞の盾と活動奨励金50万円が贈られる(ベルマーク賞については、ベルマーク教育助成財団から50万円を贈呈)。

スタッフの指導のもと、修理に挑戦する児童―福岡県糸島市立引津小学校



おもちゃ病院伊都国 (福岡)

物を愛する心 修理で育む

黄色いエプロンとバンダナを身につけた「ボランティア団体おもちゃ病院伊都国」のメンバー約10人が昨年11月、福岡県糸島市立引津小学校にやってきた。4年生向けの「おもちゃ修理体験学習」のためだ。大賀ももかさん(10)は、音が出なくなつた電話の修理に挑戦した。よく遊んだ大切なおもちゃだ。スタッフの指導を受けながら取りかかると、慣れないドライバ―を手に分解すると、スイッチの接触不良が原因と分かった。部品を交換すると、再び音が出るようになった。大賀さんは「妹と弟にもこれで遊んでほしいから、うれしい」と喜んだ。

無償修理している。08年からは学校を訪れ、子どもたちと一緒におもちゃを直す活動も始めた。ものを大切にしたいとの思いからだ。準備は念入りだ。開催3週間前に学校に足を運び、修理することごみが減り、エコにつながることを説明。電車のおもちゃなどを教材に、動く仕組みや修理の手順も教える。引津小の戸高健校長(59)は「電気の流れ方など授業で学んだことを実感できる。子どもが『こういうことだったのか』と気付く体験は大事」と話す。

一度修理を体験した子が、自分の力で別のおもちゃを直そうとして失敗し、質問に来ることがある。代表の波多江保彦さん(75)は「子どもの興味の幅を広げ、意欲を伸ばすことにつながるよう、うれしい」と顔をほころばせる。

(山下知子)



← 1月11日(3週間前): 事前説明会

生徒数は6班30名
学習の意義や進め方を説明し、自宅から壊れたおもちゃや修理用工具の持ち寄りを依頼



提供 毎日新聞社

1月18日(2週間前)～ : 集まった29個のおもちゃの仕分け作業 →

1. 難易度判定: 正味90分の授業内に修理できそうなA区分15個;教材に使う、修理困難なC区分12個;後日修理して返却、AとCの中間のB区分3個;教材予備
2. 教材配分: 教材にするおもちゃを各班に配分(なるべく、持ってきた子どもが自分のおもちゃを修理できるように配慮)
3. 部品・材料の準備: 個々の修理に必要な部品・材料を予め準備



← 開始の挨拶

ベテランのスタッフが、入念な事前準備と、学齢に応じた指導法検討で万全の体制、



↑ こちらでは、ぬいぐるみの修理
男子も女子も、針を持つのは初めてだが丁寧なナースの指導でちゃんとできた手間では、サッカーボードの修理中



↑ プラレール車両の修理

ドライバーは初めてだが、女子だってやればできる! 組み立て作業にみんなが注目

発表希望! →

学習最後の振り返りでは、一斉に発表希望の挙手 ひとりひとりが、初めての体験に強い刺激を受けたことが窺われる



↑ 体験学習状況

生徒は6班に分かれて、それぞれのおもちゃ修理に挑戦
おもちゃ病院のスタッフは総勢16名。各班に分かれて、考えさせる・相談に乗る・やってみせる・作業させる・手助けする・出来たら褒める ステップで指導
当日の修理完了数は、生徒の持込みおもちゃ16個 + おもちゃ病院で準備したぬいぐるみ10個 (授業時間内に修理が終わらなかつたり、小学生では修理が難しいおもちゃは、後日おもちゃ病院で修理して生徒に返却)